

## 2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	湿気小委員会		主 査 名：小椋 大輔 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：岩田利枝 主 査 名：尾崎明仁
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	2017 年度： ・ WG 活動の支援を行い、熱シンポジウムの準備を行う。 2018 年度： ・ WG 活動の成果を踏まえた熱シンポジウムの実施を行う。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：		
	主査：小椋大輔 (京都大学) 幹事：伊庭千恵美 (京都大学) 委員：青木哲 (岐阜工業高等専門学校)、安福勝 (近畿大学)、岩前篤 (近畿大学)、宇野 朋子 (武庫川女子大学)、尾崎明仁 (九州大学)、岸本嘉彦 (室蘭工業大学)、権藤 尚 (鹿島建設)、齋藤宏昭 (足利工業大学)、佐藤真奈美 (大阪工業大学)、高田暁 (神戸大学)、永井久也 (三重大学)、本間義規 (宮城学院女子大学)、松岡大介 (も のつくり大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	①建物における湿害の規準 WG：「湿害」の定量的評価法の構築を行う。 ②地域特性に応じた吸放湿性能評価WG：吸放湿材の評価手法や予測手法の構築を行う。 ③文化財の保存と活用のための熱湿気環境 WG：文化財保護の温湿度環境の整理を行う。 ④湿気環境と健康 WG：湿度が人体健康性に与える影響を明確にする。 ⑤建築全体の温湿度環境評価WG：建築全体の熱環境性能の評価手法について検討する。 ⑥蒸暑地域における住宅の湿害調査 WG：蒸暑地域の住宅の湿害の実態を明らかにする。 ⑦湿気物性の現状調査 WG：AIJES-H001-2006 の改訂を念頭に近年の情報収集を行う。		
2017 年度予算	160,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (2 回実施。年度内あと 1 回を予定)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	(特になし)
講習会	(特になし)
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	(特になし)
大会研究集会	(特になし)
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 湿気関連の諸問題の整理とその解決に向けて意見交換を行った。 2. 新たに 6 つ WG を設置し、成果物作成準備を積極的に支援した。 3. 熱シンポジウムについて準備を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 成果物の公表は出来ていない。

## 2017 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>・各分野のWGが着々と次回熱シンポを見据えた活動を行っており、概ね順調である。</p> <p>・2006年に刊行された日本建築学会環境規準 AIJES-H001-2006の改訂を行うことを目的として、湿気物性の現状調査WG(熱環境運営委員会・湿気小委員会傘下、2016年4月～2018年3月)での成果を踏まえ、企画刊行運営委員会傘下で、湿気物性に関する測定規準改訂小委員会の設置申請を行った。</p> <p>・日本建築学会環境基準 AIJES-H0003-2013「建物における湿害の診断と対策に関する規準・同解説」の英文化を行うべく、企画刊行運営委員会傘下で、英語版・建物の湿害に関する学会規準小委員会の設置申請を行った。</p> <p>・成果物の公表はできていないが、上記のような成果物の作成及び公表に向けた準備が順調に進んでいる。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。